

本明川水系河川整備計画の点検について
【本明川総合水系環境整備事業】
再評価実施後3年経過した事業

平成27年10月26日

1. 総合水系環境整備事業の概要(全体計画)

総合水系環境整備事業の概要

◆目的

- ・本明川は、河川空間の利用に関し、**人々が川と触れ合い、親しめる、潤いのある水辺空間の整備**を目指し事業を実施。

◆事業概要

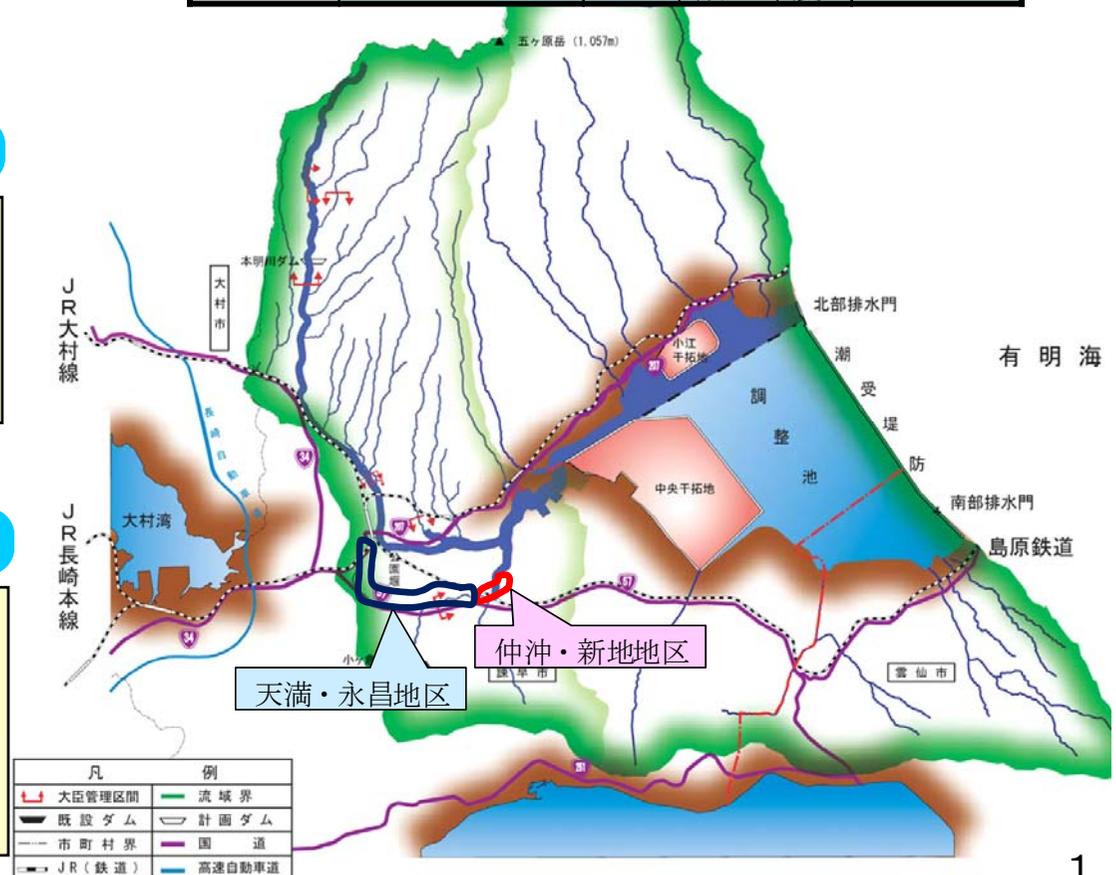
■ 仲沖・新地地区 環境整備事業 (完了)

位置：本明川 両岸1k600～3k200付近
 ○ 本明川の流下能力を高めるための河道掘削、河岸の洗掘防止のための低水護岸及び水制工、河川管理施設の巡視・点検のための管理用通路を整備した。

■ 天満・永昌地区環境整備事業 (継続中)

位置：本明川 3k200～6k200付近
 ○ 諫早市が進めるまちづくりの取り組みと連携しながら、河川利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、環境整備事業として高水敷に管理用通路、階段工・緩傾斜護岸の整備を実施中。

区分	箇所名	事業期間	
本明川総合水系 環境整備事業		平成17年度～平成29年度	
水辺整備	なかおき しんち 仲沖・新地地区	平成17年度 ～平成22年度	完了
	てんまん えいしょう 天満・永昌地区	平成25年度 ～平成29年度	継続中



1. 総合水系環境整備事業の概要 (完了箇所を紹介)

仲沖・新地地区 環境整備事業(完了)

- ◆ 高水敷整正、護岸、水制、管理用通路が整備され、**日常的な散策やレクリエーション、自然観察、環境学習の場等で安全な利活用が可能となった**ことから事業の効果は発現している。
- ◆ 整備後5年程度経過しているが、現在でも良好な利用状況である。



仲沖・新地地区の整備



仲沖・新地地区の整備箇所



環境学習



河川美化イベント(本明川交流会)

【仲沖・新地地区の利用状況(主なイベント等)の状況】

時期	内容	参加者数
毎年 2月,12月開催	諫早小学校駅伝大会、マラソン大会(練習会場等)	約500人
毎年4月開催	「桜つつみをきれいにせんば」(本明川交流会)	約120人

1. 事業の必要性等

地域開発の状況等

- ◆本事業は、本明川中流の諫早市中心市街地に位置し、沿川住民の憩い、安らぎの場として、多くの人々に親しまれている。
- ◆平成34年の新幹線の開業に向け、諫早駅周辺整備基本構想や中心市街地活性化等を進めている。

地域との協力体制

- ◆沿川の地域住民や河川利用団体の代表、諫早市を主体とした「本明川河川利用懇談会」を設立し、整備内容や維持管理等を議論しながら行っている。
- ◆その他、沿川住民で組織されている「本明川交流会」や「本明川オピニオン懇談会」が活動しており、本明川のあり方等について議論し、地域と一体となったかわまちづくりを進めている。



諫早市街地を流れる本明川



「本明川河川利用懇談会」会議・現地視察状況

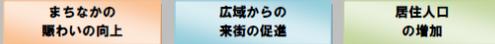
1. 事業の必要性等

関連事業との整合

◆新幹線の開業に向けて諫早市や各団体で進めているまちづくりの取り組みと連携し、まちと川を結ぶ一体的な河川空間の整備を行うことで、諫早市街地の地域振興、活性化に寄与するものとなる。

諫早市中心市街地活性化基本計画の流れ

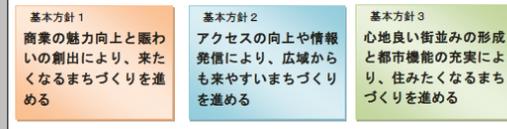
●活性化における主たる課題



●諫早市の中心市街地の将来像

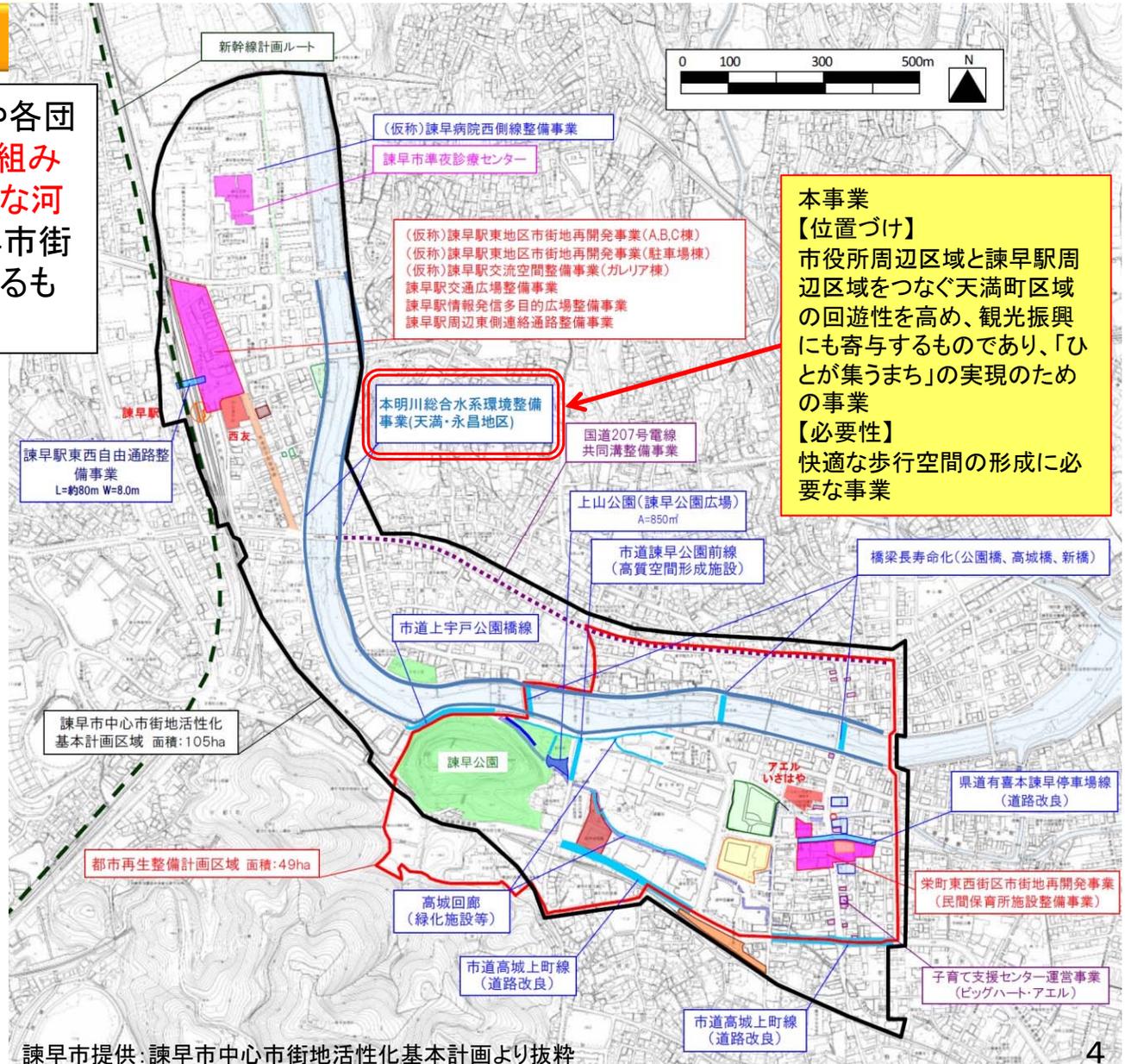
暮らしのなかに、つながりを実感できる街

●3つの基本的な方針



●活性化の目標

目標1 賑わうまち 魅力的で、来なくなるまちづくり	目標2 ひとが集うまち 来やすいまちづくり	目標3 安心して生活できるまち 住みたくなるまちづくり
数値指標1 アエル中央商店街の歩行者通行量(平日)	数値指標2 本諫早駅、諫早駅(島原鉄道)の乗降客数	数値指標3 居住人口
現況値 (H24): 8,015人/日 ↓ 目標値 (H30): 9,200人/日	現況値 (H24): 126.6万人/年 ↓ 目標値 (H30): 134.0万人/年	現況値 (H24): 3,574人 ↓ 目標値 (H30): 3,700人



本事業
【位置づけ】
市役所周辺区域と諫早駅周辺区域をつなぐ天満町区域の回遊性を高め、観光振興にも寄与するものであり、「ひとが集うまち」の実現のための事業
【必要性】
快適な歩行空間の形成に必要な事業

1. 事業の必要性等

河川環境を取り巻く状況

- ◆河川敷に降りるための階段が急勾配であり、一連区間で**散策路となる管理用道路が整備されていない**状況で、地域住民から安全で安心して利用できる水辺空間の整備が強く望まれている。



雑草が繁茂し、歩きづらい



表面凹凸が歩きづらい



急勾配の階段



地面がぬかるんでおり、歩きづらい

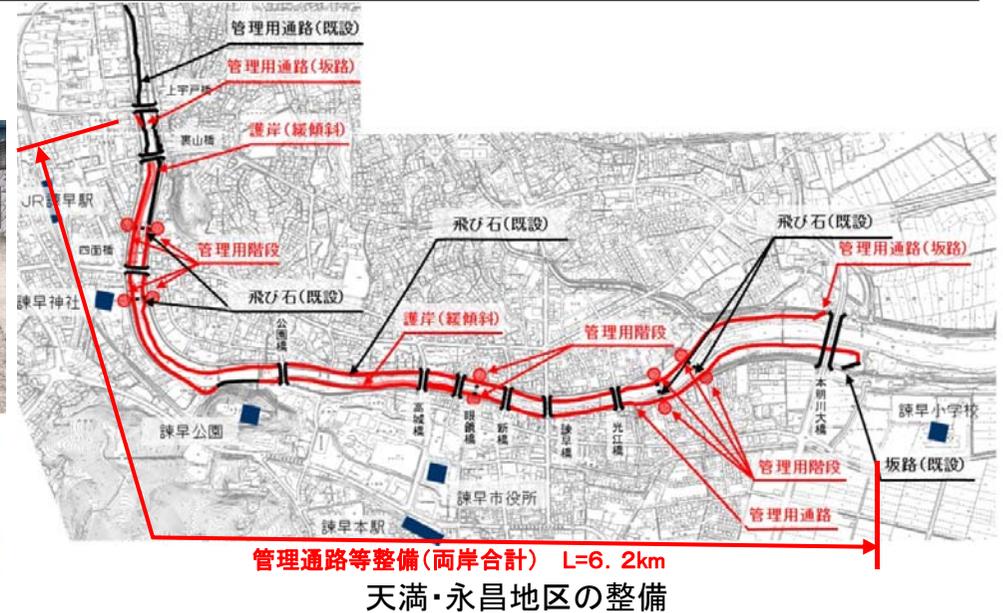
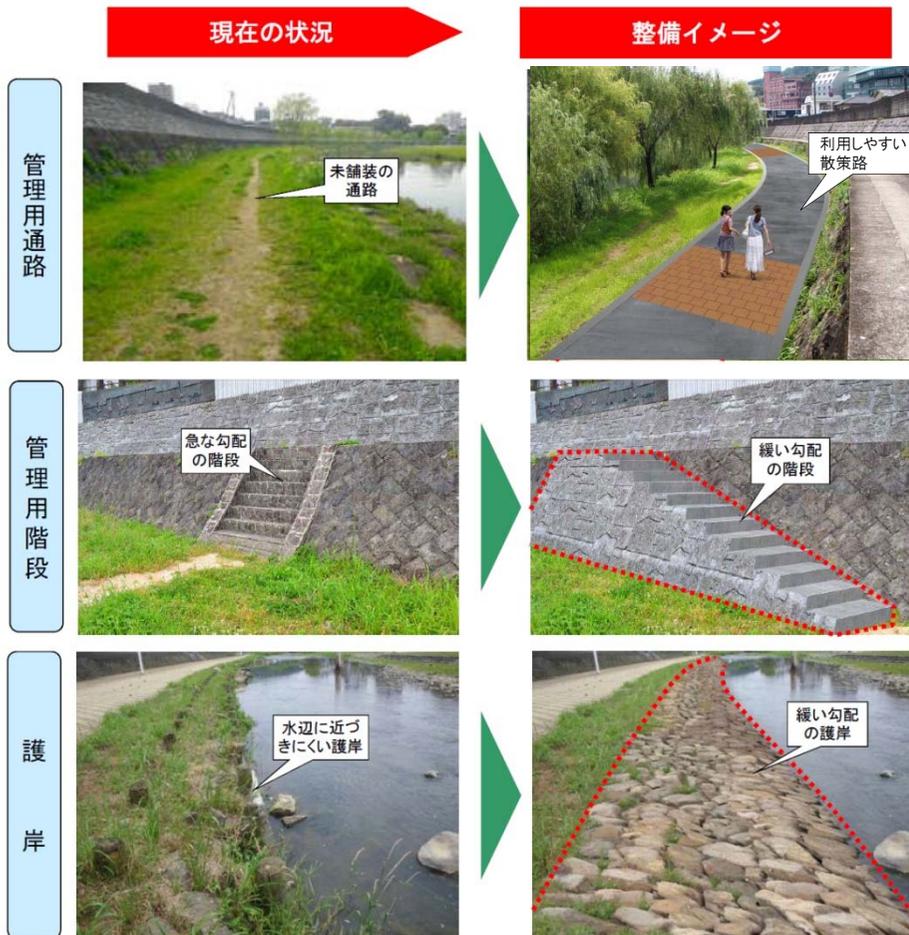


合流点の河川敷が分断され、歩行できない(不連続箇所)

1. 事業の必要性等

天満・永昌地区 環境整備事業(継続)

◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、管理用通路や管理用階段、護岸(緩傾斜)等を整備する。



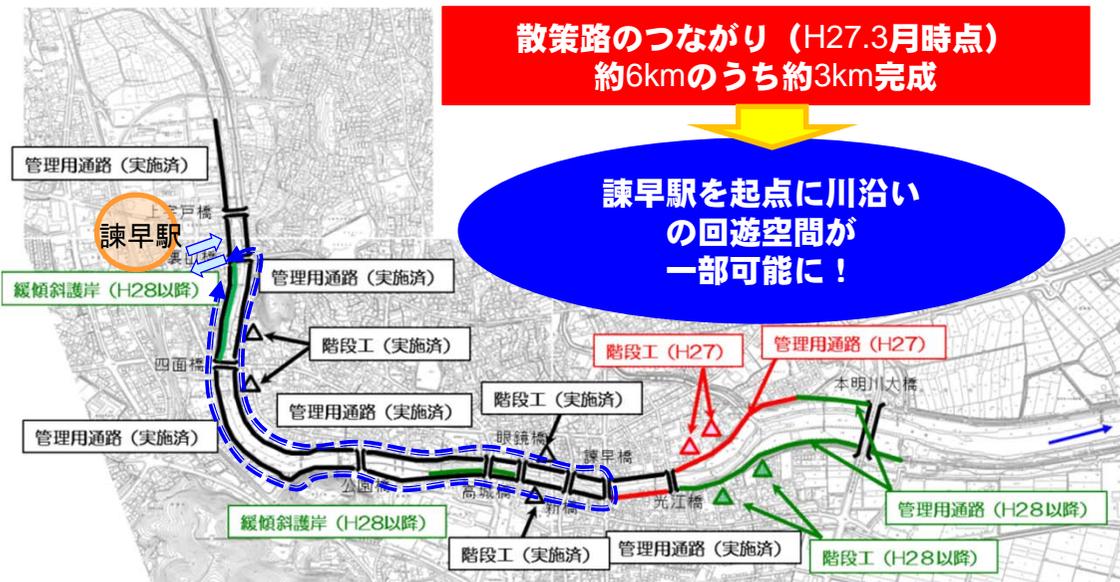
【概要】

位置	本明川3k200~6k200
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、管理用階段、護岸等
事業費	6.1億円
整備完了年	平成29年度
事業期間	H25~29年度

2. 事業の投資効果・進捗状況

天満・永昌地区 整備実績・利活用状況

- ◆散策路整備は、**全長約6kmのうち約3km完成**(H27.3月末時点)させ、日常的な散策や水遊び、本明川を軸とした多数のイベント開催などで多くの方々に利用されている。
その結果、**年間河川利用者は10年前の約7万4千人から約15万人へ倍増**しています。



【工程表】

工種	H25	H26	H27	H28	H29
管理用通路					
管理用階段					
護岸					



散策路の利活用状況

年間の河川空間利用者数



2. 事業の投資効果・進捗状況



諫早・本明川
河川利用10年で倍
散策路整備も進む

本明川(長さ28km)とその周辺を散歩や水遊びなどに使う「河川利用者」がこの約10年間で倍増している。国土交通省の調査で2003年度の約7万4千人から昨年度は約15万6千人に増えた。同省は本明川沿いで散策路の整備を進めており、利用者のさらなる増加に期待を寄せている。

本明川は諫早で「母なる川」ともいわれ、市中心部を流れ、河川敷や飛び石などが潤いのある水辺空間を織りなしている。ただ、河川敷に草が繁茂し近づきにくい所もあるため、同省は13年度に安全で多様な利用ができるよう幅3m前後の散策路の整備を始めた。整備エリアは裏山橋から本明川大橋までの右岸と左岸の計約6kmで、17年度をめぐりに完成予定。これまでに、右岸が裏山橋からかつて眼鏡橋があった地点までの約1.5km、左岸が四面橋上流から光江橋までの約1.7kmを整備した。

こうした歩きやすい環境づくりも奏功し、昨年度の河川利用者は、整備前の09年度に比べ、6万3千人多かった。同省は「ゴールデンスウィークもつるぎながら歩いていただければ」と利用を呼び掛けている。

平成27年5月4日付朝刊:長崎新聞掲載

費用便益費

項目	前回評価時 (平成24年度)	今回評価時 (平成27年度)
総事業費	約14.5億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約6.1億円	約14.5億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約6.1億円
整備完了年	平成29年度	平成29年度
B(便益)/C(費用)	1.6 (27.4億/16.8億円)	1.6 (31.4億円/20.0億円)

諫早市民の声

- 散策路ができて素晴らしい本明川となった。
- 市民のウォーキングの場として期待される。

3. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆天満・永昌地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成25年度に事業に着手し、**計画どおり平成29年度に完了させる見込みである。**

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆天満・永昌地区では、平成24年4月より地域住民や諫早市、国土交通省等により構成された「本明川河川利用懇談会」が継続的に開催されるなど、地域の協力体制が整備されており、**今後も順調な事業進捗が見込まれる。**

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆天満・永昌地区の整備内容については、計画段階から「本明川河川利用懇談会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっている。
- ◆諫早市は、新幹線効果を更に高めるため、**まちづくりを具体化する「諫早地域活性化検討委員会」**を立ち上げ議論しており、事業の見直し等の必要があれば河川管理者としても**新たな事業展開に対して積極的に支援していく。**

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年、**労務単価等の上昇によるコスト増の可能性**があるが、**新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針**である。

6. 対応方針(原案)(案)

- ◆諫早市では、隣接する諫早駅周辺において、本明川沿いを安全に楽しくめぐることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備や中心市街地活性化等を進めており、天満・永昌地区における安全で安心して利用出来る河川空間の整備を強く要望されている。このため、管理用通路、管理用階段、護岸等の環境整備事業を行うものである。
- ◆平成24年4月から地域住民代表、諫早市、国土交通省等が参加する「本明川河川利用懇談会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、諫早市により実施するものとされた。以上により、地域の協力体制が整っている。
- ◆事業を実施することにより、安全で安心な水辺空間の形成が期待でき、事業の費用対効果も十分見込まれることから、引き続き事業を継続することとしたい。